

徳山下松港長期構想(素案)に対するご意見の内容と県の考え方

(1) 意見の募集期間

平成 25 年 2 月 28 日 (木) から平成 25 年 3 月 28 日 (木) まで

(2) 意見の件数

3 人 6 件

(3) 意見の内容と県の考え方

項目	ご意見の内容	ご意見に対する県の考え方
全般	本構想を検討する検討委員会や、港湾計画を審議する港湾審議会に、もっと女性の声が反映できるよう、女性委員の参画の比率を増やす方策や、仕組みづくりを検討すべき。	アンケート調査等を実施し、幅広く意見をいただきました。 なお、審議会の委員につきましては、引き続き女性の参画に努めて参ります。
	素案には、多くの専門用語や単位などが用いられているため、分かりやすく注釈等が必要。	専門用語や単位などには、注釈を加えました。
物流	物流をいかに効率的にするかの視点が欠けている。海運、陸運が一体となった計画であるべき。	港湾関係車両の適正分離による交通円滑化等を長期構想に位置づけ、中期～長期的に取り組むこととしています。
	国際バルク戦略港湾施策は、整備予算の投資先の選択と集中という観点から、徳山・新南陽地区の整備も必要不可欠ではあるが、まずは既存で水深を確保している下松地区の整備を進めていくことが重要と考える。その中で、国内の幅広いユーザーに対し、国全体の貨物の流れを検討しなければならない。	国際コスト競争力の強化のためには、石炭を輸送する船舶の大型化に対応した港湾機能の強化を図る必要があり、まずは、短期的には、下松地区に整備する施設を活用した「国際バルク戦略港湾施策の推進」に取り組むこととしています。
	徳山地区に多額の費用を投資して浚渫するより、下松地区を併用すれば費用対効果もあると考える。	さらに、中期的には、社会経済情勢の動向を踏まえ、「大型船舶に対応した大水深施設の整備」に取り組むこととしています。
交流	未着手となっているウォーターフロント事業（ポートルネッサンス 21 計画、コースタルリゾート計画、マリーナ整備計画）について、現況把握や今後の進捗、頓挫している場合は事業自体の総括なり、今後の取組などについて議論が必要。	これら 3 つの計画については、長期構想検討委員会において、議論いただき、「市民が本当に憩える場として、身近に感じられる港を整備すべき」との意見をいただいております。地域の特色を活かした「親水交流拠点」の形成に取り組んでいきます。